

臨床検査医学科

● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 福武 勝幸
 医局長 萩原 剛
 病棟医長 四本 美保子
 外来医長 鈴木 隆史

医師数 常勤 16名
 非常勤 4名

● 診療科の特徴

臨床検査医学科は、血栓止血異常、HIV感染症、輸血診療を専門とする診療科である。

血栓止血異常では、先天性凝固止血異常の代表疾患として血友病があり、平成27年度末までの当科登録患者は血友病Aが337人、血友病Bが89人である。国内に約5,000人の患者がいるので1割弱の患者を診療してきたことになる。血友病では関節内出血、筋肉内出血、消化管出血、脳出血などの出血予防と止血管理、または手術にともなう止血管理をおこなう。繰り返す関節内出血による慢性変化である血友病性関節症は整形外科やリハビリテーション科とともに診療している。その他、血液製剤由来の感染症としてHIV感染症やC型肝炎の治療も行う。また、血友病推定保因者の確定診断を希望する女性に対し、遺伝カウンセリングと研究レベルの遺伝子解析検査も行っている。近年、新規血友病治療製剤の開発が盛んであり、最近では26の国際共同臨床試験に参加し、41症例に対して治験を行っている。血友病以外の先天性凝固止血異常には von Willebrand 病、低フィブリノゲン血症、先天性第V因子欠乏症、先天性第VII因子欠乏症、先天性第X因子欠乏症、先天性第XI因子欠乏症、先天性第XIII因子欠乏症、血小板無力症、ベルナル・スーリエ症候群など、また後天性疾患として後天性血友病、後天性 von Willebrand 症候群、DIC、ビタミンK欠乏症などがある。血栓性疾患としては先天性アンチトロンビン欠乏症、先天性プロテインC欠乏症、先天性プロテインS欠乏症、抗リン脂質抗体症候群などが対象疾患である。

HIV感染症は急性期、慢性期および、後天性免疫不全症候群（AIDS）すべてを対象とし、平成27年度末までに当科で登録された患者数は1992名である。平成27年度の新規患者は97人である。現在約1,300人が通院している。HIV/AIDS関連性疾患としてはニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、食道カンジダ症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、結核、非結核性抗酸菌症クリプトコッカス髄膜炎、トキソプラズマ脳症、進行性多巣性白質脳症、HIV脳症などが多い。

輸血診療としては主に各科の術前自己血貯血を請け負っており、年間700件ほど対応している

● 診療実績

平成27年度外来件数は11,892件、初診患者は728人、初診患者の内訳はHIV感染症97人、血友病32人、そ

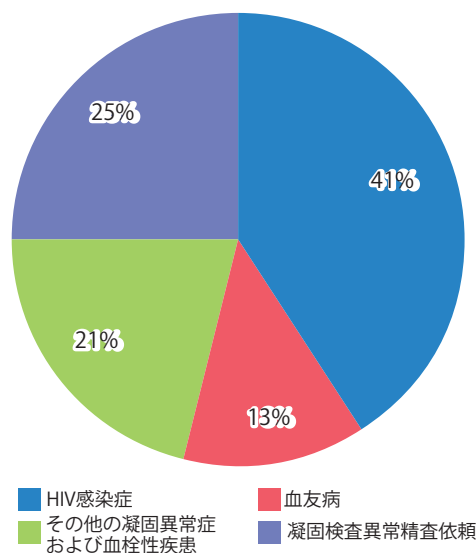
の他の凝固異常症および血栓性疾患が約50人、凝固検査異常精査依頼が約60人であった。自己血貯血依頼はのべ670件であった。

平成27年度入院件数は173件、主科入院が74人、併診入院が99人。内訳はHIV感染症が72人、血友病を代表とする先天性凝固異常症が43人、後天性血友病を代表とする後天性凝固異常症が9人、先天性アンチトロンビン欠乏症、プロテインC欠乏症、プロテインS欠乏症などの先天性血栓性疾患は7人、そのほかの凝固障害が52人（28%）であった。

平成27年度診療実績

年間初診患者数	728人/年
年間外来患者数	11,892人/年
うち自己血貯血件数	670件/年
年間主科入院患者数	74人/年
年間併診入院患者数	99人/年

平成27年度外来初診内訳
 （自己血貯血を除く）



平成27年度入院診療内訳

